

令和7年度 第1回奈良市社会教育委員会会議 会議録

開催日時	令和7年7月4日（金）午後2時～午後3時30分		
開催場所	奈良市役所 中央棟 B1 会議室		
出席者	委員	安藤委員、岡田和委員、岡田龍委員、加藤委員、紙家委員、小北委員、柴田委員、中村委員、廣瀬委員【計9人出席】	
	事務局	教育長、教育部長、教育部次長、地域教育課長、地域教育課課長補佐、奈良市生涯学習財団事務局長	
開催形態	公開（傍聴人0人）	担当課	教育部 地域教育課
議題 又は 案件	(1) 令和7年度社会教育関係事業について ① 「令和7年度補助金交付社会教育関係団体」について ② 「令和6年度社会教育委員事業実績」について ③ 「令和7年度社会教育委員事業計画」について (2) 奈良市社会教育推進計画に基づく事業報告について (3) 奈良市社会教育推進計画の改訂について (4) その他		
議事の概要及び議題又は案件に対する主な意見等			
(1) 令和7年度社会教育関係事業について ① 「令和7年度補助金交付社会教育関係団体」について ・戦後の社会教育が発展していく過程で、社会教育関係団体を育てるために補助金を支給してきた歴史がある。しかし現在は当補助金団体以外にも様々な団体が増えて、それらの団体も経済的に潤沢ではない。その中で、今の補助金を受けている団体がどういう役割を果たしているのか、もう育てる段階は過ぎて育っているが、今は逆にまた支援しないとつぶれてしまうぐらいに、子供の数が減ってきているという状況があるとした時に、この団体がどういう役割を果たしているのか、補助金出してでも継続することを支援するべきなのかをどこかで見直さないといけなくなってくるだろう。 ・光熱費や人件費等、何か事業するにも費用は高くなっており、子どもの数が減少したからといって補助金を減らすという事に直結しないが、補助された分に対して、どのような活動をしたのかといった説明や、補助希望額に関する説明はいただきたい。 ⇒補助金なので各団体が自立的に運営していけるように努力をしていただきたいという考えは市としてあるが、補助金を見直すにあたっては市の補助金交付の考え方、補助対象経費といった交付の要件等を改めて検討しどうしていくのが今後課題になっていくと思う。その過程で、おそらく事業が縮小していつている団体に対する対応の仕方というものも変わってくるかと考える。 ・抜本的に本補助金については検討していただきたいという意見があり、補助金を支給されている社会教育関係団体に対して、これまでの実績通りに次年度支給されると思わずに補助金支給について説得力のある資料等を提出していただくよう要請あり。 <補助金交付について上記条件付きで承認された> ② 「令和6年度社会教育委員事業実績」について ③ 「令和7年度社会教育委員事業計画」について			

(2) 奈良市社会教育推進計画に基づく事業報告について

- ・ 現行計画の評価分布表に従って評価をすることになっているが、事業によっては評価項目に矛盾がある部分もある。次期計画を作る際には評価項目、評価の内容自体を変えていく必要がある。
- ・ 今年度力を入れて実施したことや、どういう成果があったのかを報告していただいた方がいいと思うので次年度検討いただきたい。

(3) 奈良市社会教育推進計画の改訂について

前回会議の振り返りを事務局からご説明した。

前回、計画改訂にあたり①めざす方向性、②アンケートについてご協議頂いた。

① めざす方向性について

現行計画の基本目標や「まなび、つながり、ささえる」という方向性は理念として継続しつつ、数値目標を含めた指標を設定することで、より具体的に進めていく。その際には、すべての事業を定量化するのは現実的に難しいため、市民参画指数や市民アンケートを活用した指標設定も踏まえて、主要な重点的な事業に対して設定していくこと、また基本計画のめざす姿「まなぶ、つながる、ささえる」が相互に循環することを踏まえて設定することが挙げられていた。

② アンケートについて

アンケートのねらいを明確にした上で、アンケート結果を計画にどのように反映させるのかを踏まえて調査項目を検討すること、現在の計画の評価シートを参照してアンケートを作成してはどうかのご提案もいただいた。また実施にあたってはQRコード等を活用し、内容も簡素化することが挙げられていた。その上で、市民意識調査等のアンケートに、社会教育に関するご意見やデータがないか整理し、計画のでき上がり形、想定を出すこと、アンケートのたたき案を次回までに作成することとなった。

前回の会議を受けて計画の想定案、アンケート案を作成し協議いただいた。

【委員からの主な意見・質問等】

(アンケート実施手法について)

・ 市の現状を統計的に把握しようとするならば、無作為抽出して送らないといけないが費用がかなり掛かる。WEBで実施しようとする、すでに無作為ではなくて、誰か回答しやすい人が回答している。

・ WEBでやっても関心持ってもらえるのが疑問。関心ある方々は答えてくださると思うが求めるだけの回答数が回収できるのか。

・ しみんだよりをめぐって、QRコードを読み取って回答する方もそんなに多くないだろう。

・ 有意抽出をした人たちの意見を計画の全体の意見として計画に載せるというよりは、計画は計画で作り、計画の載っているホームページにアンケートは別立てで載せてもいいのではないか。

・ 計画にアンケートで回答した内容が反映されていることが分かればいいのではないか。

・ 公民館利用者の高齢者もいるので紙での回答の方が回答してもらえるのではないか。

⇒施設利用者については、それぞれの施設利用者アンケートがすでにあるのでその部分は把握できるかと思う。

・ しみんだよりの記事の締切が2か月前であることもあり、しみんだよりは今回見送り、施設での広報やWEBで実施。

(アンケート案について)

・ 市の社会教育にフォーカスしているのか、個人のまなびにフォーカスしているのが全体として曖昧。市の事業のことを聞きたいと思うので、個人の学びというよりは市の社会教育にもうちょっとフォーカスがあらいいと思う。

⇒聞き方の入口が曖昧なために、どんな学びのところにフォーカスして考えればいいのかというのがまず引かかったのだと思う。前回までの会議のところで、アンケートを作るにあたってアンケートで問う項目や文言が増えていくと答えなくなっていくから、言葉を短くしてわかりやすいとの意見があったため簡潔にシンプルに努めてみたところ、結果として言葉足らずになっているため、アンケートの様式を見直したい。



きたことを組み合わせれば、ある程度課題として書けるのではないかと思う。

- ・評価の仕方自体も検討していく必要がある。

⇒今までのように事業を並べて、「まなび」はこの事業、「つながり」はこの事業という別個の目標を設定するのではなくて、いくつか重点事業を設定して、「まなび、つながり、ささえあう」という一本貫いた目標を設定するよう変えていきたいと事務局では考えている

- ・事務局には、素案に課題を入れ込んだ上で次回全体計画のラフな案を提示していただきたい。次回会議までにWEBを使用しつつ議論を進めて、次回会議では内容を修正していく。アンケートはしみんだよりではない方法で実施し回収できる範囲で回収して計画に反映させていく。

資 料	<ul style="list-style-type: none"><li>・令和7年度 第1回奈良市社会教育委員会議次第</li><li>・奈良市社会教育委員名簿</li><li>・資料1～資料5</li></ul>
-----	---